

平成 26 年度 毛長川流域連絡会（第五期・後期） 活動報告書

毛長川流域連絡会の概要

- 第六建設事務所では、毛長川を地域に活かした親しめる川とするため、流域の皆様や足立区、東京都が情報や意見の交換を行うことを目的として、平成 15 年に毛長川流域連絡会（以下「連絡会」という。）を設置いたしました。
- 連絡会は 2 年を 1 期とし原則として年に 2 回開催しており、平成 26 年度は第五期の後期として委員 20 名[都民委員 14 名（団体委員 11 名、公募委員 3 名）、行政委員 6 名]により運営されました。今年度は第 18 回として第五期 3 回目連絡会を開催し、第 19 回は現地視察を実施しました。

平成 26 年度の活動内容

第 18 回流域連絡会

- 日時：平成 27 年 1 月 20 日（水） 14 時 00 分から 16 時 00 分
- 会場：竹の塚地域学習センター 三階 レクリエーションホール
- 参加人数：都民委員 12 名、行政委員 5 名
- 議題・議事概要

第五期の 3 回目として東京都からの報告事項をもとに、毛長川について意見交換が行われました。



1. 開 会
2. 事務局挨拶
 - ・資料の確認
 - ・進行の説明
 - ・都民委員、行政委員の紹介

- ・第六建設事務所 副所長兼工事課長挨拶
- ・「毛長川流域連絡会設置要綱」の説明

3. 議 事

(1) 毛長川の整備計画について (事務局)

〈概要〉

- ・暫定計画は、東京都の河川整備計画により概ね20～30年で整備する計画で、雨量48時間217mm(台風など雨量)1時間50mm(局地的な集中豪雨)を適切に流す川を作るものである。将来的には100年に1回位の雨量48時間355mmも想定しているが、下流の綾瀬川の整備などが必要で、当面は暫定整備計画により整備を進めていく。
- ・毛長川延長10kmのうち下流7kmは埼玉県との都県境を流れているため、都と県の協定により4分割し、区間ごとに都と県で整備を進めている。整備の進め方は「①鋼管矢板設置」、「②河床掘削」、「③護岸コンクリート被覆」「④緑化修景」の順番で整備する。
- ・下流から見沼代用水(砂小橋・舎人橋付近)までの東京都施工区間「①鋼管矢板」が完了している。
- ・また、「②河床掘削」については下流から施工を開始し、現在は毛長橋の上流付近で施工中である。
- ・今後は景観に配慮して、「③護岸コンクリート被覆」を行い、「④緑化修景」を検討する予定である。

〈質疑・意見〉

(都民委員) 将来計画の355mm48時間は1時間平均で何mmになるのか？

(事務局) 電卓の計算数値だと7.4mmとなる。

(都民委員) 217mmも時間にすると1時間あたり何mmになるか？

(事務局) 4mm、もしくは4.数ミリである。

(2) 毛長川の整備工事について

〈概要〉

- ・鷺宮橋下流から綾瀬川の合流点まで約170mの間で行っている護岸整備工事については、調整が整ったので、本格工事に着手する。
- ・「毛長川河床掘削工事その12」は下流から始めて今回が12回目の工事で、洪水時の安全確保と河川環境改善の二つの目的がある。
- ・今年度は舎人二つ橋と毛長橋間約240mを昨年10月から今年3月の予定で施工しており、昼間作業が基本であるが、大型機械の搬入など夜間作業も一部ある。
- ・工事は河床を平均1.5メートル掘削し断面積を確保するため大型バックホウ先端の吸引機で土砂を吸引し、1.7km下流の辰井川排水機場まで圧送、脱水処理施設で水と土に分け、各々適正に処分する。

〈質疑・意見〉

(都民委員) 全体で何パーセント位終わっているのか？

(事務局) 下流から進め、概ね4分の3位終わっている。

(都民委員) 埼玉県の範囲も進んでいるのか？

(事務局) 下流側の埼玉県区間は完了している。

(3) 毛長川魚類調査結果について (情報提供) (足立区)

〈概要〉

- ・25年の足立区内の毛長川、綾瀬川、圀川、荒川等に生息する魚類等の調査結果を報告する。

- ・水質状況について、D0は水に酸素が溶けている数値で、値が高いほど良くなる。BODは水質浄化の基準で、生物が消費した酸素の量とされ、値は低いほど良い。18年度を境にBODは下がり水質改善されD0は上がっている。一方、25年度は24年度に比べ若干水質が良くないが、調査時の気象条件等を踏まえると横ばいで18年度以降、引き続き、改善傾向と判断している。
- ・「毛長川ふれあい橋上流」の記載の魚類調査で、コイ、銀フナ等々で計16種類が確認されている。去年の19種類より3種類減だが、採取方法等を踏まえ同じ状況であると判断している。特定外来種の「カダヤシ」が今年も含まれている。
- ・全体の水質は去年同様に四つの河川では毛長川が一番多く魚が確認され、周辺の下水道等の整備も少しずつ進んで水質も改善傾向にある。

〈質疑・意見〉

(都民委員) 足立区は水質を真剣に検討しているようだが、上流の川口市、埼玉県は排水状況に関心があるのか？資料は埼玉県から届いているのか？埼玉区間での状況も知りたい。

(足立区) 埼玉県も少しずつ下水道の普及、浄化槽の整備等も進んで改善の方向に向かっている。手もとのデータでは八潮市の下水道の普及率は70%位。これ以外は今後、調査をしたい。

【→平成25年度末 下水道普及率 川口市85.5%、草加市91.6%】

(事務局) 整備内容等は埼玉県と協議を進め、今後とも皆様に説明できるよう調整を進める。

(都民委員) 40年くらい前はドブの匂いがしていたが、現在の足立区側の下水整備状況はどうなっているのか？

(足立区) 概成100%であり、下水道は、ほぼ完備されている。

(都民委員) たまに汚水などが流れて来ているのが見られるが、どこからか出ているのか？

(足立区) 市側も環境部門が調査し、油や汚水を発見できれば指導し、足立区も環境部署が連携して行っている。また、市側の水路から出て足立区の水路を経由している場合、毛長川に行かないよう市と足立区の水路管理部署が連携してオイルフェンスの設置等を行ったりしているが、出所が不明だと指導ができない。毛長川の水質グラフにおいて全体的に水質が改善方向に向かっているのは、埼玉県内の下水道などの整備が進んだものと思われる。

(都民委員) 東京都、足立区、埼玉県、川口市が別々だが、統括して出来るような改善は無いのか？

(事務局) 埼玉県と東京都は対等な行政体として作業をしている。協定で範囲を定めて護岸整備を行っているが、埼玉県にも事情がある。今後とも東京都では局で埼玉県と調整し、事務所は埼玉県の出先に働きかける。

(4) 毛長川周辺の水防体制について (事務局)

〈概要〉

- ・水防態勢として、連絡態勢、警戒配備態勢、その後第一から第四まで非常警戒配備態勢となっている。連絡態勢は雨量、水位等の情報収集、指示・伝達するもので平成24年から26年までにおいては、24年度76回、25年度58回、26年度68回、3か年平均で67回となる。水防本部設置は警戒配備態勢以上で、24年度12回、25年度14回、26年度17回で、警戒配備態勢以上の回数は年々増加している。
- ・水防態勢の要因となる台風と集中豪雨のうち台風18号の例では、10月5日の日曜日から10月6日の月曜日に東京に接近、足立区内では毛長橋観測局のデータで時間最大雨量19mm、累計雨量242mmであった。時間最大雨量19mm、概ね2日、30時間位で累計雨量242mmだった。
- ・10月6日(月)8時25分に最大雨量を記録し、台風18号時の第六建設事務所の水防態勢は警戒配備態勢発令が5日(日)21時48分、警戒配備態勢解除が10月6日の19時29分で職員22名が対応した。

- ・ 9月10日のゲリラ豪雨の例で、足立区内では大きな被害はなかったが、台東区で記録的短時間大雨情報100mmが発表された。毛長橋周辺では、時間最大雨量2mm、累計雨量2mmということから局地的集中豪雨であることが分かる。

〈質疑・意見〉

- (都民委員) 全国では100mmを超えるものがあり、後で「想定外」などと聞くと責任回避に感じる。100mmの集中豪雨の時はどうなるのか、これから先、災害と環境のどちらを重視するのか、また環境、水害などの対応策をどのように進めるか？
- (事務局) 基本は災害を防ぐ治水という考え方があり、出来るところの環境は併せて整備して行きたい。毛長川は50mmが治水目標だが、50mm以上の降雨もあるので、全体的に次の段階として65mm、75mmというものが出ている。段階を上げて行くと川をさらに拡幅する必要があるので、他の河川では洪水を溜める調節池を整備している。受け皿を大きくして局地的豪雨を飲み込む努力をしていくことを考える。
- (都民委員) 1時間に75mmというものが文面に出せるのはいつ頃か？
- (事務局) 50mmを上げるのは東京都の施策で、河川整備計画は河川法による。河川法は国土交通省所管で東京都が計画を改定し認められれば変わるが、埼玉県との調整などに時間がかかる。東京都で意思決定し次に進めることになるが時間がかかる。今後、河床掘削や綾瀬川整備などと共に段階的に進められて行くだろう。
- (河川部) 毛長川、綾瀬川も含めた中川流域全体の整備計画を担当し時間50mm、48時間217mmの整備を進めている。東京都区部の時間75mmの整備水準の改定は基本的に川に流す分は75mm、それ以上は調整池などで一時貯留する施設等々で対応するようにしている。河川は整備してしまうと再度広げるには沿川の住民の皆さんが移転する必要がある出来ないこともある。整備計画の改定は流域全体で考えるので、必要な段階を踏まなければならないが、安全性を確保する整備計画を考えている。

(5) その他 次回流域連絡会について (事務局)

〈概要〉

- ・ 第19回流域連絡会は2月下旬から3月上旬の開催で、北区志茂の「荒川知水資料館アモア」を予定している。

4. 閉会

第19回流域連絡会（現場視察）

- 日時：平成27年3月5日（木） 13時00分から16時00分
- 参加人数：都民委員9名、行政委員5名
- 行程：荒川知水資料館 ※マイクロバスで移動

1. 開 会

2. 現場視察

荒川知水館「アモア」

〈概要〉

- ・イコノス 荒川流域の衛星写真と地盤高図や浸水想定区域図を重ね合わせたもの、また、昔の地図と比較した荒川の変遷など。
- ・荒川情報ボード 荒川流域の自然、魚類、昆虫類など様々な情報など。
- ・流域模型 流域面積2,940 km²、全長173kmの荒川流域の2万5000分の1の地形模型、河口から源流までの空撮映像など。
- ・都市河川・荒川 川で洪水が起こったとき流域の町にどのように浸水するか20地点のシミュレーション映像など。
- ・流水模型 水の動きの監察や水門の役割を、パーツを入れ替えて水門を開閉する実験、荒川ロックゲートの仕組みなど。



荒川情報ボードの視察



流域模型など

旧岩淵水門

〈概要〉

- ・旧岩淵水門 明治43年大洪水の東京下町への大きな被害により、明治政府は抜本的な対策として荒川放水路建設を決定、荒川の洪水が隅田川に流入することを防ぐ目的で作られ、現在はその役目を岩淵水門に引き継いでいる。



旧岩淵水門



旧岩淵水門の視察

3. 閉会